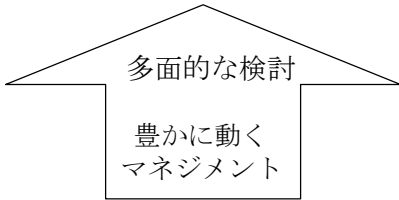


1 ■ 「カリキュラム経営」の基本的理解 …… 「教育課程」が「カリキュラム」になるために

○カリキュラム経営は、計画・編成した教育課程を実施、評価、改善していく組織的な営み。

「カリキュラム」として機能する

※ 教育課程は、教職員の多面的な検討、マネジメント（経営）が盛り込まれ、はじめて、「カリキュラム」として機能する



実施にうつすためには、豊かな「自校化」が必要

〈わが校〉の実態：強み、弱み、特質、独自性  
〈4つの実態〉：学校文化 組織文化 地域文化 教育文化

「教育課程」は、学校が目的的、組織的、計画的に実施する教育内容

現在、カリキュラム経営が注目されているのは、学習指導要領に盛り込まれた教育内容を踏まえ、学校の主体性に基づいた特色あるカリキュラムを開発する必要があるからである。各学校では、どのようなカリキュラム経営を行うかについて、学年、教科、事務分掌の全組織による十分な検討と取り組みが必要である。それにより教育の効果が確認でき、学校の特色化が可能になる。そこに、学校事務が、「行政的知識をもった教育職」としてカリキュラム経営に参画する意味がある。

※参画：企画、計画に参加すること

2 ■ カリキュラム経営に参画する角度

- 学校事務の「提案性」を生かす
- 学校事務の「定点観測」「定時観測」情報を生かす
- 学校事務の「渉外」に関する力量を生かす
- 学校事務の「効率化」の力量を生かす
- 学校事務の「現状把握力」を生かす
- 学校事務の「コミュニケーション」能力を生かす
- 学校事務の情報収集・集積・発信を生かす

戦略的に顕在的ニーズ、潜在的ニーズや財政的観点から提言を/  
 情報は集めてみると「意味」が見える/学校の実態は「定点観測」から見える/  
 「連携先」という渉外の蓄積/  
 先生方の3大苦手意識をカバーする：①財務執行 ②コスト感覚③効率化/  
 「システム化」は、学校事務の得意分野/「効率化」でつくる研修・研究の時間/  
 意外と分からない学校の現状：デジタル視点からアナログ視点へ  
 適切な予算編成・適切な管理・適切な執行の手法を役立てる←先生方は多忙で「その日暮らし」感が  
 生きのいい情報は学校事務がキャッチ/意味のある情報発信装置を←子どもは日替わり情報を楽しみにしている

3 ■ 自校教育の質を高める「連携・協働」のヒント …… 学校事務のチャレンジ

- 地域社会は学校教育のどこを見ているか      いつも学校力を感じていたい
  - ① 学校が動いている
  - ② 学校にスパイラル（らせん的向上）な志向性がある
  - ③ 教育のベクトルがいつも子どもに向いている

組織の中で成長する教職員の力量

質の高い教育実践を実現するために

- ①概念化能力 …… 一つ一つの仕事、実践が自校の教育にとってどんな価値や意味があるか  
常々考える能力
- ②実践的専門性 …… 手堅い実践力（学校事務は、学校予算、情報、外部折衝などの専門的力量）
- ③人間関係調整力 …… 協働の基礎
- ④コミュニケーション能力 …… ことばによって適切に対応
- ⑤協働的な問題解決能力 …… 同僚とチームで対応      ※チームプレーは日本の得意分野